

新国立劇場 2016/2017 シーズンオペラ
モーツァルト

フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro

2017年4月20日(木)～29日(土祝) 会場:新国立劇場オペラパレス
【2017年1月14日(土)前売開始】



「フィガロの結婚」2013年公演より 撮影:三枝近志

モーツァルトが未来へ遺した素敵なプレゼント！世界中で人気の永遠の名作

伯爵の召使いフィガロと恋人スザンナの結婚をめぐる一日の騒動が生き活きと描かれた、モーツァルト不朽の名作。

軽快な序曲、アリア「恋とはどんなものかしら」「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」「愛の神様」と全編有名な曲ばかり。

モトーンの舞台を登場人物が縦横無尽に動き回るホモキの演出は細部まで演技が裏付けられ、

オペラを超えて演劇ファン、ミュージカルファンなどすべての舞台ファンを魅了します。

スパニョーリ、ミコライ、中村恵理ら選りすぐりの歌手が魅せる！

気鋭の指揮者トリンクスのもと、キャストは欧米の一流歌劇場で活躍する歌手陣が勢揃い。

アルマヴィーヴァ伯爵は、モーツァルトを得意としウィーン、METなどで活躍するスパニョーリ。

伯爵夫人は、やはりモーツァルトで特に評価が高い、新国立劇場でもおなじみのミコライ。

スザンナ役には、新国立劇場オペラ研修所出身でロイヤルオペラ、バイエルン州立歌劇場などで大活躍の中村恵理が10年ぶりの登場。世界で高く評価されるようになった中村恵理の現在をオペラで観られる、楽しみな機会です。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨 木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709

E-Mail:takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

新国立劇場 2016/2017 シーズンオペラ

モーツァルト **フィガロの結婚**

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初演:1786年5月1日／ウィーン・ブルク劇場

作曲:ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト 原作:ピエール＝オーギュスタン・ボンマルシェ 台本:ロレンツォ・ダ・ポンテ

モーツァルトが未来に遺した素敵なプレゼント！世界中で人気の永遠の名作

伯爵の召使いフィガロと恋人スザンナの結婚をめぐる一日の騒動が生き活きと描かれた、モーツァルト不朽の名作。単独で演奏されることも多い軽快な序曲に始まり、「恋とはどんなものかしら」(ケルビーノ)、「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」(フィガロ)、「愛の神様、手をさしのべてください」「楽しい思い出はどこへ」(伯爵夫人)と、全編思わず口ずさみたくなるような有名な曲が続きます。

現代最高のオペラ演出家のひとりホモキの演出は、モノトーンの舞台を登場人物が縦横無尽に動き回り、ドラマの進行とともに社会的秩序が取り払われ、ピュアな人間性が生き生きと描き出されます。演技は細部まで裏付けられ、オペラを超えて演劇ファン、ミュージカルファンなどすべての舞台ファンを魅了すると大評判になりました。比類ない完成度の舞台として高く評価されている、新国立劇場の看板演目のひとつです。

スパニョーリ、ミコライ、中村恵理ら選りすぐりの歌手が魅せる！

キャストは欧米の一流歌劇場で活躍する歌手陣が勢揃い。アルマヴィーヴァ伯爵は、モーツァルトを得意としウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場などで活躍するスパニョーリ。伯爵夫人は、やはりモーツァルトで特に評価が高い、新国立劇場でもおなじみのミコライ。スザンナ役には、新国立劇場オペラ研修所出身で英国ロイヤルオペラ、バイエルン州立歌劇場などで大活躍の中村恵理が10年ぶりに登場。欧州のオペラ界で注目を集める中村恵理ですが、近年の国内リサイタルも極めて高く評価され、今や日本で最も注目される音楽家のひとりとなりました。『フィガロの結婚』は研修生時代に新国立劇場デビューを飾り、その後の活躍のスタートとなったプロダクションです。久々の出演は、中村恵理の現在をオペラの舞台で観られる、絶好の機会となります。フィガロ役はシュトゥットガルト州立歌劇場専属歌手として目覚ましい活躍をするパルカ。ケルビーノはベルリン・ドイツ・オペラ専属歌手として活躍し、ケルビーノ役で欧州各地で成功している新星クルコヴァです。新国立劇場に定期的に登場し、手堅い指揮ぶりで評価されているトリックスのもと、珠玉のアンサンブルを繰り広げます。

■『フィガロの結婚』ものがたり

【第1幕】アルマヴィーヴァ伯爵の使用人フィガロとスザンナはもうすぐ結婚。しかし伯爵はスザンナを狙っており、女中頭マルチェリーナは借金の証文をたてにフィガロとの結婚を目論んでいる。思春期の小姓ケルビーノがスザンナに伯爵夫人への思いを語っていると、伯爵が部屋に来たため、慌てて椅子の陰に隠れる。伯爵がスザンナに迫っていると、今度はドン・バジリオが来て、伯爵も大慌てで隠れる。ケルビーノが伯爵夫人に熱い視線を送っていたとバジリオが語ると、伯爵は怒って姿を現す。ケルビーノは伯爵に軍隊入りを命じられてしまう。

【第2幕】夫の愛が冷めてしまったと嘆く伯爵夫人。フィガロは伯爵夫人とスザンナに、伯爵を懲らしめる策を話す。それは女装したケルビーノと逢引きさせるというもの。さっそく仕度を始めるが、部屋に伯爵夫人とケルビーノ2人きりのときに伯爵が来たため、急いでケルビーノを衣裳室に隠す。愛人が潜んでいると疑う伯爵は、伯爵夫人と押し問答の末に、扉を開ける。すると、中にはスザンナがいて、伯爵だけでなく伯爵夫人も啞然。ここはフィガロの機転で窮地を脱したが、次にマルチェリーナが借金の契約通りフィガロと結婚させると訴えてくる。

【第3幕】借金の証書をめぐる裁判で、フィガロが生い立ちを話すうち、彼はマルチェリーナとバルトロの子であることが判明。3人は親子の再会を喜ぶ。伯爵夫人とスザンナは衣裳を交換して逢引きする計画を立てる。フィガロとスザンナ、マルチェリーナとバルトロの結婚式が行われ、その時にスザンナは伯爵に誘いの手紙を渡す。

【第4幕】夜。伯爵はスザンナと逢引きするが、その中身は伯爵夫人だと全く気づいていない。フィガロが伯爵夫人に愛を語るのを見た伯爵は怒るが、女性2人が入れ替わっていることを知り呆然。伯爵は非を認め大団円となる。

報道用資料

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】コンスタンティン・トリックス

Constantin TRINKS

カールスルーエ生まれ。同市の音楽大学で指揮とピアノを学ぶ。またシュトゥットガルト室内合唱団ではテノール歌手として出演。複数の歌劇場や音楽祭でヴォーカル・トレーナーや指揮者を務めながら幅広いレパートリーを身につける。バーデン州立劇場カールスルーエで音楽スタッフ、さらにカペルマイスターを務めた後、2002年にはザールラント州立劇場の第2カペルマイスターに就任、さらに04年には第1カペルマイスターに任命され、06-09年には音楽監督代理を務めた。09年より12年まではダルムシュタット歌劇場の音楽監督を務めた。13年には、ワーグナー生誕200年を記念し、パイロイト音楽祭(ライプツィヒ歌劇場と共同制作)で初上演となる『恋愛禁制』を指揮している。その他にはウィーン国立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、クラークンフルト市立劇場、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座などに客演しているほか、コンサート指揮者としても様々なオーケストラを指揮している。モーツァルト、ベッリーニ、ドニゼッティ、プッチーニ、ヴェルディ、ワーグナー、シュトラウス、バーンスタインなどのオペラレパートリーのほか、幅広いシフォニーレパートリーを持つ。16/17シーズンはバイエルン州立歌劇場『魔笛』、『後宮からの逃走』、『ホフマン物語』、ストラスプール・ライン・オペラ『サロメ』、プラハ国立歌劇場『ローエングリン』などを指揮する予定。新国立劇場では08年『ドン・ジョヴァンニ』、12年『ラ・ボエーム』、13年『タンホイザー』を指揮している。



【演出】アンドレアス・ホモキ

Andreas HOMOKI

ドイツのマルム生まれ。1987年から92年までケルン歌劇場でアシスタント・ディレクターを務める。ジュネーヴ歌劇場92/93シーズン開幕の『影のない女』の演出で大成功を収める。その後、ハンブルク州立歌劇場『リゴレット』、デンマーク王立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』、バーゼル歌劇場『エレクトラ』、バイエルン州立歌劇場『アラベッラ』、ネザラント・オペラ『ルル』などヨーロッパを中心に活躍。2002/2003シーズンからベルリン・コーミッシェ・オーパーの首席演出家に就任し、『フィレンツェの悲劇』『金鶏』『マハゴニー市の興亡』『ハムレット』などを取り上げ話題となった。12年エクサン・プロヴァンス音楽祭でのシャルパンティエ『ダビデとヨナタン』の洗練された演出で好評を博している。12/13シーズンからチューリヒ歌劇場総監督に就任。日本では08年びわ湖ホール・神奈川県民ホール『ばらの騎士』などを手掛けている。新国立劇場では03年『フィガロの結婚』、07年『西部の娘』を演出している。



【アルマヴィーヴァ伯爵】ピエトロ・スパニョーリ

Pietro SPAGNOLI

イタリア生まれ。長年にわたり、世界の重要な歌劇場に客演しており、主にモーツァルト、ロッシニおよびドニゼッティの主要級の諸役で国際的な活躍をしている。『フィガロの結婚』フィガロ、アルマヴィーヴァ伯爵、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、ドン・アルフォンソ、『チェネレントラ』ダンディーニ、ドン・マニフィコ、『愛の妙薬』ベルコーレ、ドゥルカマラー、『連隊の娘』シュルピス、『ドン・パスクアーレ』医師マラテスタなどがある。今までに出演した主要な劇場は、パリ・オペラ座、シャンゼリゼ劇場、バイエルン州立歌劇場、アン・デア・ヴィーン劇場、メトロポリタン歌劇場、モネ劇場、リヨン歌劇場、エクサン・プロヴァンス音楽祭、ロッシニ・オペラ・フェスティバルなどがある。その他のレパートリーとして、『騎士オランダ』ロドモンテ、『オリー伯爵』ランボー、『イタリアのトルコ人』詩人プロスドチーモなどがある。16/17シーズンはトゥールーズ・キャピトル劇場『イタリアのトルコ人』セリム、ウィーン国立歌劇場『愛の妙薬』ベルコーレ、ローマ歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソなどの出演。新国立劇場初登場。



【伯爵夫人】アガ・ミコライ

Aga MIKOLAJ

ポーランド生まれ。ポズナニの音楽アカデミーで学ぶ。エリザベート・シュワルツコップに師事。モーツァルトを中心としてリヒャルト・シュトラウス、ヴェルディ、ワーグナーなどの幅広いレパートリーを確立する。特に『フィガロの結婚』伯爵夫人、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『魔笛』パミーナなどで高く評価されている。1995～2002年ポーランドのポズナニ大劇場で出演を重ね、02～07年までバイエルン州立歌劇場の専属歌手として活躍。現在も、同劇場には客演しているほか、ウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、グラインドボーン音楽祭などヨーロッパ各地に出演。さらにバイエルン州立歌劇場『ラインの黄金』フライア、ベルリン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、及び英国ロイヤルオペラ『ニーベルングの指環』ヴォークリンデ、ポリショイ劇場『こもり』ロザリンデなどに出演している。新国立劇場で08年、14年『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、12年公演ではドンナ・アンナ、15年『ファルスタッフ』アリーチェに出演している。



【フィガロ】アダム・パルカ

Adam PALKA

ポーランド出身。グダニスクで学び、グダニスクのバルティック・オペラのメンバーとして『リゴレット』スパラフチーレ、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』レポレッコなどに出演。07年にはスポレート音楽実験劇場の奨学金を獲得したほか、チューリヒ歌劇場オペラスタジオに参加。08年、ワルシャワ歌劇場に『リゴレット』スパラフチーレでデビューし、同年『ルクレシアの凌辱』コラティヌスで再登場。10年から13年まではライン・ドイツ・オペラの専属歌手として『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『フィガロの結婚』フィガロなどに出演。ライン・ドイツ・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』新演出でのレポレッコデビューは特に高く評価された。13/14シーズンからシュトゥットガルト州立歌劇場の専属歌手となり、『チェネントラ』アリードーロ、『夢遊病の女』ロドルフォ伯爵、『ドン・ジョヴァンニ』レポレッコ、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『ルイザ・ミラー』ヴァルター伯爵などに出演。15/16シーズンにはトゥーロン歌劇場『イル・トロヴァトーレ』フェルランドで大成功を収めたほか、サン・テティエンヌ歌劇場『皇帝ティトの慈悲』ブプリオ、ポーランド国立歌劇場『ウィリアム・テル』ヴァルター・フルストにも出演した。16/17シーズンにはシュトゥットガルト州立歌劇場で新演出『ファウスト』（フランク・カストルフ演出）メフィストフェレス、『ドン・ジョヴァンニ』レポレッコ、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵などに出演している。新国立劇場初登場。



【スザンナ】中村恵理

NAKAMURA Eri

兵庫県出身。大阪音楽大学卒業。同大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。2003年オペラ研修所在籍中に新国立劇場『フィガロの結婚』バルバリーナでデビューして注目を集める。その後、アムステルダム・オペラスタジオ・ネザーランドに在籍。08年から2年間、英国ロイヤルオペラのジェット・パーカー・ヤング・アーティスト・プログラムで学ぶ。研修期間中に、アンナ・ネトレブコの代役として『カプレーティ家とモンテッキ家』ジュリエッタに出演して成功を収めた。10年から16年までバイエルン州立歌劇場と専属歌手契約を結び、『フィガロの結婚』スザンナでデビュー後、『魔笛』パミーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『ナクソス島のアリアドネ』ナヤーデ、『神々の黄昏』ヴォークリンデ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『ホフマン物語』ジュリエッタなどに出演。11年にはベルリン・ドイツ・オペラに『トゥーランドット』リユーでデビュー。同役はバイエルン州立歌劇場、オビエド歌劇場、トゥールーズ・キャピトル歌劇場、英国ロイヤルオペラでも出演した。14年にはロイヤルオペラ『リゴレット』ジルダ、ワシントン・ナショナル・オペラ『魔笛』パミーナなどにも出演。最近ではバイエルン州立歌劇場に定期的に出演しているほか、16年11月には『チェネントラ』クロリンダでウィーン国立歌劇場にもデビューした。15年度（第66回）芸術選奨文部科学大臣賞受賞。新国立劇場では、05年『フィガロの結婚』バルバリーナ、06年『イドメネオ』イーリア、07年『ファルスタッフ』ナンネッタ、07年『フィガロの結婚』スザンナ、こどもオペラ『ジークフリートの冒険』森の小鳥、ブリュンヒルデ、『スペース・トゥーランドット』ラベンダー姫に出演している。



【ケルビーノ】ヤナ・クルコヴァ

Jana KURUCOVÁ

スロヴァキア共和国生まれ。バイエルン州立歌劇場の研修所、ハイデルベルク歌劇場の専属歌手を経て、ベルリン・ドイツ・オペラの専属歌手として活躍。セビリア・マエストランツァ劇場『フィガロの結婚』ケルビーノで成功を収め、さらにベルリン・ドイツ・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラのロールデビューは最大級の成功を収めた。またドルトムント音楽祭での『カプレーティ家とモンテッキ家』ロメオ、ザクセン州立歌劇場のデビューとなった『セビリアの理髪師』ロジーナも大成功であった。最近では、ベルリン・ドイツ・オペラ、プラハ国民劇場、モラヴィア・シレジア国立劇場、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、バーデンバーデン祝祭劇場、ティミショアラ歌劇場などの劇場に出演。主なレパートリーとしては、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、『蝶々夫人』スズキ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『マリア・ストゥアルダ』エリザベッタ、『ペレアスとメリザンド』メリザンド、『カルメン』タイトルロール、『ジュリアス・シーザー』セスト、ボーイト『メフィストフェレ』マルタ、『ファルスタッフ』メグ、『ナブッコ』フェネーナなどがある。2016年夏にはブレーメン音楽祭でロッシニ『タンクレディ』ロジジェーロに出演。16/17シーズンにはベルリン・ドイツ・オペラで『ユグノー教徒』ウルバン、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラにロールデビューしたほか、『蝶々夫人』スズキ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラなどに出演予定。新国立劇場初登場。



新国立劇場 2016/2017 シーズンオペラ

モーツァルト **フィガロの結婚**

【全4幕<イタリア語上演/字幕付>】

【公演日程】 2017年4月20日(木)18:30 / 23日(日)14:00 / 26日(水)14:00 / 29日(土)14:00

【会場】新国立劇場 オペラハウス

【チケット料金】 S席:21,600円・A席:16,200円・B席:10,800円・C席:6,480円・D席:3,240円・Z席:1,620円

【前売開始】 2017年1月14日(土)

指揮	コンスタンティン・トリンクス
Conductor	Constantin TRINKS
演出	アンドレアス・ホモキ
Production	Andreas HOMOKI
美術	フランク・フィリップ・シュレスマン
Set Design	Frank Philipp SCHLÖSSMANN
衣裳	メヒヒルト・ザイペル
Costume Design	Mechthild SEIPEL
照明	フランク・エヴァン
Lighting Design	Franck EVIN
アルマヴィーヴァ伯爵	ピエトロ・スパニョーリ
Il Conte Almaviva	Pietro SPAGNOLI
伯爵夫人	アガ・ミコライ
La Contessa	Aga MIKOLAJ
フィガロ	アダム・パルカ
Figaro	Adam PALKA
スザンナ	中村恵理
Susanna	NAKAMURA Eri
ケルビーノ	ヤナ・クルコヴァ
Cherubino	Jana KURUCOVÁ
マルチェッリーナ	竹本節子
Marcellina	TAKEMOTO Setsuko
バルトロ	久保田真澄
Bartolo	KUBOTA Masumi
バジリオ	小山陽二郎
Basilio	OYAMA Yojiro
ドン・クルツィオ	糸賀修平
Don Curzio	ITOGA Shuhei
アントーニオ	晴 雅彦
Antonio	HARE Masahiko
バルバリーナ	吉原圭子
Barbarina	YOSHIHARA Keiko
二人の娘	岩本麻里 / 小林昌代
Due Fanciulle	IWAMOTO Mari / KOBAYASHI Masayo
合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra
芸術監督	飯守泰次郎
Artistic Director	IIMORI Taijiro

予定上演時間:約3時間15分(休憩含む)

報道用資料

公演情報 WEB サイト <http://www.nntt.jac.go.jp/opera/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

英語版 WEB サイト・英語版 Web ボックスオフィス <http://www.nntt.jac.go.jp/english/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケット、東京文化会館チケットサービス ほか

* Z席 1,620 円:Z席 42 席とZ(音のみ)席 4 席は、公演当日朝 10 時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスおよびセブン・イレブン、サークルK・サンクスの端末操作により全席先着販売します。1 人 1 枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%) : 公演当日残席がある場合、D 席・Z 席を除く全ての席種について 50% 割引で販売。要学生証。電話予約不可。

* 新国立劇場では、ジュニア割引(中学生以下 20%)、高齢者割引(65 歳以上 5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)など各種割引サービスをご用意しています。

新国立劇場 WEB サイト <http://www.nntt.jac.go.jp>

東京都渋谷区本町 1-1-1 京王新線新宿駅より 1 駅、初台駅直結。

報道用資料

★本演目はレパートリー(再演)公演です。過去の上演の記録写真を宣材としてご提供いたします。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】